

携帯電話も Wintel に??

前号で、パソコンと同じように PDA でも Wintel が事実上の標準になる可能性が高いと記した。では、携帯電話はどうなるだろうか？

現在、携帯電話用の OS としては、英国の Symbian の Symbian OS、日本の μ ITRON 系の OS 等が主として使われている。

またブラウザとしては、WML というウェブ記述言語を使っている海外の携帯電話には、米国の Openwave のブラウザが主として使われ、Compact HTML という記述言語を使っている NTT ドコモの i モードの携帯電話には、日本の ACCESS の Compact NetFront が主として使われている。

そして現在、NTT ドコモは i モードを全世界に広めようとしており、これに歩調をあわせて ACCESS も Compact NetFront の海外展開を企てている。

一方、Openwave は、WML だけでは今後の市場をカバーできないと、Compact HTML や、次期携帯電話用の記述言語である XHTML Basic もサポートしだした。

この 2 月には、Microsoft が Smartphone 2002 という携帯電話用の OS を発表した。これは Windows CE をベースにしたもので、Intel の ARM 系の CPU や TI の OMAP という CPU 上で使われるものである。いわば Wintel の携帯電話版である。これには PDA 用の Pocket PC と同じブラウザやメール処理ソフトが使える、すでに台湾の Compal というメーカーが次期携帯電話でこの OS を使うと発表している。

携帯電話の CPU としては英国の ARM の系統のものが最大のシェアを占めているが、TI の OMAP、日立の SH 等も使われている。

このように、携帯電話の世界にはまだ事実上の標準といえるものは存在しない。1970 年代のパソコンの世界のようなものである。これは今後どうなっていくのだろうか？

まず、ブラウザについてはどうだろうか？

前に、本誌 No.104(2001/02/18)の「i モード開国！? (コンテンツ)」¹⁾に記したように、携帯電話のウェブをパソコンや PDA でも見たいという要求が今後強まるだろう。そして、パソコンのウェブと同じように、全世界の携帯電話用サイトを世界中のどの携帯電話からも見られることが望まれるだろう。

こういう要求を満足するためには、ウェブ記述言語がパソコン用のものと親和性が高いものでなければならない。それは、将来は XHTML Basic になるのかも知れないが、当面は HTML の簡易版である Compact HTML に近いものが全世界で使われるようになるのではないかと思う。HTML 系のウェブのページがすでに全世界にあまりにも多く蓄積されているので、主流が XHTML 系に切り替わるのは相当先になると思われるためである。

そのため、当初から HTML と親和性の高い記述言語やブラウザを扱ってきた ACCESS は現在非常に有利なポジションにいるのだが、すでに Openwave も Microsoft も同様なブラウザの提供を始めようとしているので、予断は許されない。

次に、PIM やメール処理ソフトについてはどうだろうか？

携帯電話にはあまり複雑なアプリケーション・ソフトのニーズはないだろうが、スケジュール管理やアドレス帳のニーズは高いだろう。そしてこれらは、PDA やパソコンと親和性が高い必要がある。

仕事で外出するときは PDA を携帯し、休日に行楽に出かけるときはよりハンディーな携帯電話を持ち歩くのが普通になるだろう。そうするとスケジュール管理やアドレス帳は、相互に簡単に最新データをコピーでき、使い勝手も似ていることが望まれる。

そしてこれらは、パソコンとも自由にデータを交換できる必要がある。つまり、パソコン、PDA、携帯電話は、それぞれ単独でなく、総合的な情報システムとしてよく考えられたものでなければならない。

そのため、前号に記したように PDA の世界で Wintel が事実上の標準になると、その勢力は携帯電話まで飲み込んでしまう可能性がある。そのもうひとつの理由は、将来の PDA は携帯電話の機能を持ったものが多くなり、また携帯電話にも PDA に近い高機能のものが現れて、両者の境目がはっきりしなくなると思われるためである。

現在、携帯電話の世界では、パソコン等と違い、独自のソフトを使っているメーカーが多いようだ。しかし、携帯電話の機能がパソコン並みに複雑になった結果、開発費の負担が膨大になり、品質の確保が困難になって、昨年は事故が多発した。そのため、CPU、OS、ブラウザ、PIM 等、それぞれのコンポーネントについて、他社の実績の多い製品を採用したり、他社と共同開発する動きが今後ますます強まるだろう。そして最終的には、Wintel になるかどうかは別にしても、事実上の標準が決まってしまう可能性が高いと思う。

また、CPU、OS、ブラウザ、PIM 等のコンポーネントは、あくまで他のコンポーネントと組み合わせられて、小さいとはいえ立派な情報システムとして使われるものである。従って、このことを無視して、コンポーネント単体としていくらいいものを作ってもだめである。1 社で全世界の携帯電話の全コンポーネントを供給すること等できるわけがないので、コンポーネントのメーカーは、事実上の標準がどうなるかを見極めて、それに合わせて製品を開発する必要がある。

従って、現在ひとつのコンポーネントで圧倒的なシェアを誇っているメーカーが、将来もそのシェアを維持できるかどうかは保証の限りでない。

1) URL : <http://www.toskyworld.com/money/2001/money104.htm>

「Tosky's MONEY」 URL : <http://www.toskyworld.com/money/>

Copyright (C) 2002, Toshinori Sakai, All rights reserved (1)